

E-37 日本の核家族を考へる(オ5報) 30代夫妻の職業による勢力関係について
久阪せつ子 小川晴子

目的 家族の勢力関係を決める要素のなかで、職業は労力、生活時間、価値体系、日常生活慣習を支配するなど大きな力を提供している。30代夫妻の職業による勢力関係について、すでに報告した40代夫妻の場合と比較しつつ調査、分析することにより、変容をづけけるわが国の家族研究の一端とした。

方法 西日本各地の30代夫妻380家族について昭和55年2月実態調査を行った。調査項目は、家内の重大事の決定、日常事の決定について、それぞれ4項目ずつとし、これら家族のうち(A)夫雇用者、妻無職、(B)夫妻ともに雇用者、(C)自営業者の3タイプを抽出し同時に都市部、市部、郡部の3地域に大別した。分析は、夫を軸に測定したもので、データを2検定、7検定により統計処理、考察した。

結果 (1)全般的には、40代の夫妻に比し、どの職業の夫もかなり等質的な勢力関係といえる。(2)しかし内部的差異として、夫妻ともに雇用者のタイプの夫は全般的に日常事の決定項目において他のタイプの夫より勢力があり、自営業の夫は重大事について勢力を示す傾向がある。(3)地域的差異として、夫雇用、妻無職のタイプのうち都市部の夫は他の地域の同じ職業タイプの夫より強い勢力があり、このことは40代の夫妻とは逆な現象で、30代夫妻の場合は、現代に再編成された男性の優位性の一つの型とうけとめることも出来よう。しかし、職業はその多様性、複雑性など多種の要素を統合測定する困難を伴うので、この報告も家族の一側面を相対的にとらえたものであることをご了承いただきたいと思う。